

第一次お雑煮戦争



水菜

VS



餅菜

いウミウシは貝の仲間、巻いた殻をもつオウムガイはイカ・タコの仲間、どういこと？尾張と三河ではお雑煮のスタイルは一緒なのに、使う葉が違っていて、どういこと？身の回りにあふれる自然は、知らず知らずのうちさまさまなものを見比べる姿勢を育て、たくさんの「？」の種をもたらししてくれます。

『楽！サイエンス』ではこれまで、海の生き物や山の石、温泉など、科学の目からみた蒲郡のた

知るは楽しみなり

からもの一部を紹介してきました。私たちにとって、蒲郡をとりまく海と山の豊かな自然こそが、とてもぜいたくなたからものなのだと思えます。比べることは、科学する心を育てる第一歩。比較して疑問をもつことが、調べること、仮説を立てること、試すことにつながっていくのです。

さて、第一次お雑煮戦争にて旗色悪しとなった私は、さっそく餅菜について調べてみました。実は餅菜と小松菜が同じ物だというのは私の間違いで、実際には小松菜に近い別の品種でした。餅菜は尾張地方独特の菜類で、葉の色は小松菜より淡く、食感は柔らかいとのこと。ただ、現在は流通ルートに乗ることは少なく、スーパーなどでは、餅菜ではなく小松菜が多く流通しているようです。なお、菜を餅の上に乗せることから『名を上げる』に通じ、縁起がよいとされる一方、『菜を食う』が『泣く』に通ずるとして、七草までは青野菜は食べないとする地域もあるとか。調べれば調べるほど、お雑煮は地域の歴史や文化と密接な関

係にあります。尾張と三河で使う葉が違ふ理由を知るためには、愛知の歴史をひも解くことが必要なのだとわかります。

知識は、疑問の答えを探す助けになります。どこを調べればよいか、何を試せばよいかを知る手がかりを授けてくれるのです。結局第一次お雑煮戦争は、歴史オンチで民俗オンチな我が家にも、お雑煮と文化について思いを巡らすという、お正月の新たな楽しみをもたらしてくれました。蒲郡の豊かな自然もきつと、科学や博物学の知識を味方につけることで、たからものの

輝きを増し、また新たな学びの種となるのではないのでしょうか。

ちなみに、第二次お雑煮戦争は相手と私の作るお雑煮のどちらがおいしいかという論争です。残念ながらこちらが負けています。もちろん餅菜より水菜がおいしいということではなく、作り手の腕の問題なので、今年こそと思いい料理の本を片手にのぞむのですが…。理論の実践はなかなか難しいものですね。

生命の海科学館

学芸員 山中敦子

2004年1月1日

イベントのお知らせです

第23回夜の科学館をさんぽ 「カンブリア爆発！をさんぽ」

「カンブリア爆発」とは、今から5億5000万年前に起きた、生物の爆発的な進化のことです。アノマロカリスやオパビニアなど、奇妙な動物たちを生み出し、また私たち人間を含む脊椎動物の祖先を誕生させたとされる「カンブリア爆発」について、ご紹介します。

とき 1月17日(土)
午後7時30分～8時30分

定員 25人(申し込み順)

参加費 無料

申し込み 電話、ファクス、Eメールにてお申し込みください。
※午後7時より同じ会場にて、生演奏によるミニ・コンサートを開催します。コンサートには申し込みや定員はありませんので、お気軽にお越しください。

生命の海科学館

☎66・1717 Fax66・1817

Eメール info@nrc.gamagori.aichi.jp